



多度のイヌナシ自生地の面積は、約三千平方メートル。そこに45株が群生しています。

「将来にわたって、このイヌナシ個体群を存続させるためには、遺伝子群の成り立ちからみて、常に最低100株以上の成木が健在であることが条件である。」と葛山さんはいいます。

保全活動を開始して7年、今ではたくさんの実生が確認できるようになってきました。確認した実生には、踏まれないように目印をつけ、下草



地元で自然保護活動を展開している「NPO 法人多度自然育成の会」と地権者の加納さん、ボランティアの皆さんと連携して、毎年行われている「イヌナシの花を見る会」のようす。下草刈り作業の後、みんなでイヌナシのお花見を楽しみ、お弁当をいただきます。

を刈って、実生の成長を見守ります。

保全に関わる人たちが「かけがえない価値」を共有し、地域の財産として、イヌナシを守っていくと頑張っています。

葛山さん「生存競争に負けて枯れてしまう実生があるかもしれないが、自然にまかせ、残ったものを大切にしていこうという考え方です。」

希少なイヌナシの「天然更新」を促し、今はまだ小さい実生が、立派な成木へと成長するのを期待しています。



【参考】 みんなでまもろう国指定天然記念物「多度のイヌナシ自生地」 桑名市教育委員会